

伊豆市修善寺・中伊豆・天城地区の新中学校の整備を求める決議

過日、伊豆市教育委員会から「伊豆市修善寺・中伊豆・天城地区の中学校基本方針」が示された。伊豆市の将来を見据えると本方針が示す新中学校については、保護者からの要望も強く、早期整備の必要性は高い。

今こそ「地域の宝」である子どもたちのために、議会・行政が一丸となった取り組みとして以下の課題解決に向け取り組むべきである。

- 1、現在の児童数、未就学児の数から、今後数年のうちには、天城中学校、中伊豆中学校では段階的に1学年1クラスの単クラス化が見込まれ、修善寺中学校でさえ2クラスの学年が出現するほど少子化が進行する。
- 2、校舎についても、大地震等の災害に際しても生徒の安全が確保されなければならない。しかし、中伊豆中学校は築54年、天城中学校は築46年と施設の老朽化も深刻であり、修善寺中学校でさえインフラの老朽化が進んでいる。

これら課題を解決し、質の高い教育環境を目指すためには基本方針の早期実現に向け中学校の統合に取り組むべきであり、特に最優先すべき事項は次のとおりである。

1、校地選定と校地選定に伴う通学対策の早期着手

子どもたちにとってのより良い教育環境を実現するためには、新たな一団の校地が望ましい。校地選定に際しては、生徒・保護者にとってより良い校地となるよう安心安全な学校生活環境を最優先し、防災対策、通学対策等に配慮の上、選定作業を早急に進める。

また新中学校建設に際しての最大の課題は、通学負担の軽減であることを肝に銘じ、校地選定後速やかにバス通学対策をはじめ徒歩、自転車通学対策について建設部局、交通安全及び防犯関係部局と連携し、具体的な計画案に着手する。

2、開校年度の明示と将来負担の軽減による整備

教育基本方針では、2025年度の開校が明記された。「合併特例債」の活用など市の将来負担の軽減に最大限配慮する。

以上の取り組みと併せ、校舎の設計、配置等についても、「生徒の安全とより良い教育環境」を最優先した計画策定に向け、保護者や市民の意見を踏まえつつ取り組むべきである。

以上のとおり決議する。

平成30年12月19日

伊豆市長 菊地 豊 様

伊豆市議会議長 三田 忠男